

～ワキ毛とワキのニオイに関する検証レポート～

**ワキ毛を整えればニオイの軽減に効果があることが判明
男性のニオイ対策にはボディグルーミングが有効****17人中12人の男性で、毛を処理したワキのニオイが軽減※**

※グルーミング処理をしていないワキとの比較でニオイが軽減

パナソニック株式会社は、(株)エフシージー総合研究所の監修のもと、20～40代の男性17人を対象に、ワキの体毛を整えることでワキのニオイ軽減に一定の効果があることを検証しました。

昨今、若い世代の男性を中心に、フェイスクアやボディケアなど美容行為に対する関心が高まっています。また、当社が2013年2月に女性を対象に実施した「男性のワキに関する意識調査」(詳細は補足資料参照)では「男性のワキのニオイに関して何らかの対策をしてほしい」と思ったことがある女性は約8割に達しています。

こうした背景をふまえ、当社は(株)エフシージー総合研究所と共同で、男性のワキ毛の量とニオイの関係性について「臭気判定士によるニオイ判定」と「モニター自身による肌着のニオイの主観判定」を実施しました。

検証結果の概要は以下の通りです。

【検証概要】

検証機関：(株)エフシージー総合研究所

検証方法：①臭気判定士によるニオイ判定 ②モニター自身による肌着のニオイの主観判定
※①②共に判定を前後2回実施。第1回判定後にモニターは左右どちらかのワキ毛を3mmに整え2週間生活。2週間後、第2回判定を実施して前後の判定結果を比較。
(詳細2～3ページに参照)

実施期間：2013年2月19日～2013年3月6日

対象：男性17人(20代6人、30代5人、40代6人)

使用機器：3mmのアタッチメント付きボディスシェーバーを使用

※本リリースの実験結果・グラフ等をご利用頂く際は、必ず【パナソニック株式会社調べ】と明記下さい。

《主な検証結果》**■約7割の男性(17人中12人)が処理しないワキに比べ、ワキのニオイが軽減
20代、30代では、8割以上(11人中9人)の男性に効果が認められた**

臭気判定士がワキのニオイを直接嗅いで判定する評価試験を実施(詳細は2ページ目参照)。その結果、男性17人のうち12人は、毛を処理していないワキに比べ、毛を処理しているワキのニオイが軽減しました。このことから、毛を整えるとワキのニオイの軽減に一定の効果があることが伺えます。また年代別に結果を見ると、20代、30代では、8割以上の男性に効果が認められました。

**■モニター自身がニオイの軽減を実感
半数以上の男性が「毛を整えることでワキのニオイが軽減した」と実感**

モニターが着用した肌着の両ワキ部分をモニター自身が直接嗅ぎ、ニオイの軽減についての主観判定を実施(詳細は3ページ目参照)。その結果、約5割の男性(17人中9人)が、ワキ毛の処理前よりも処理後の方が、ニオイが弱くなっていると評価しました。このことから、毛を整えることがワキのニオイ対策として有効であることが伺えます。

《臭気判定士・(株)エフシージー総合研究所によるコメント》

《補足資料》

①メンズグルーミング市場について／②パナソニック“男性美容家電”最新ラインアップ／③「男性のワキに関する意識調査」

～ワキ毛とワキのニオイに関する検証レポート～

①臭気判定士によるワキのニオイ判定 ワキ毛を短く整えるとニオイが軽減 男性17人中12人は、毛を処理したワキのニオイが軽減※

【評価手順】

※グルーミング処理をしていないワキとの比較でニオイが軽減

- 1) モニターは25℃、50%RHに保たれた部屋で20分座位で安静。
- 2) [第1回判定] 臭気判定士がモニターの左右のワキを嗅いで判定。
(6段階の臭気強度評価(※1) / ニオイの種類評価)。
- 3) その後モニターは左右どちらかのワキ毛を3mmのアタッチメント付ボディスシェーバーを使用して整える。
- 4) [第2回判定] 2週間の間、片方のワキ毛を4回処理し、再度上記の1～2を実施してワキ下の臭気を判定。

■約7割の男性(17人中12人)が 処理しないワキに比べてワキのニオイが軽減 20代、30代では、8割以上の男性に効果を確認

臭気判定士が男性モニターのワキを直接嗅いで、ワキのニオイを判定する試験を実施。第1回目の判定と、片側のワキ毛を処理して2週間過ごした後の判定を左右で比較しました。その結果、17人中12人のモニターで、毛を処理していないワキに比べ、毛を処理したワキのニオイが軽減したことが判明しました(表1参照)。年代別に結果をみると、20代、30代では8割以上(11人中9人)の人に、ニオイの軽減効果が現れました(図1参照)。

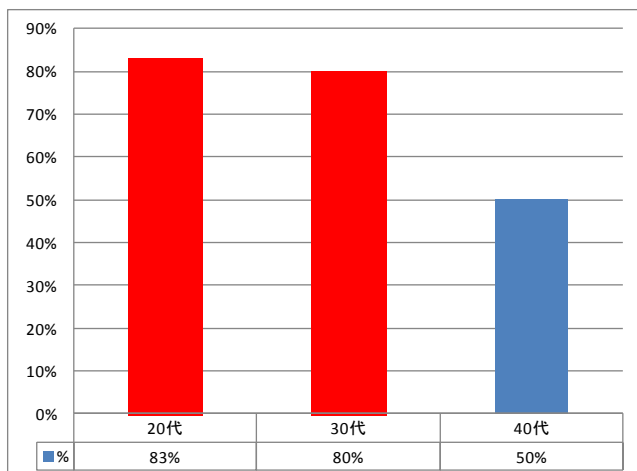
また、臭気判定士の石川先生は実験の見解として、「体毛を除去して汗や分泌物が付着する部分を減少させることが、ニオイの軽減に効果的だと言えます」と述べています。

<表1:モニター別、臭気判定士によるワキのニオイ判定>

※青塗り部分:毛を処理した方のワキ

被験者	ワキ	においの判定(臭気判定士)	
		スタート時	2週間後
A	R	1.5	2.0
	L	2.0	1.5
B	R	2.5	2.5
	L	3.0	1.5
C	R	1.5	1.5
	L	1.0	1.5
D	R	2.0	3.0
	L	3.0	2.5
E	R	2.5	3.0
	L	3.5	3.5
F	R	2.5	3.0
	L	3.0	1.0
G	R	2.5	2.0
	L	3.0	2.5
H	R	2.0	2.0
	L	2.5	3.0
I	R	3.0	3.0
	L	3.0	2.5
J	R	3.0	3.0
	L	3.0	3.5
K	R	2.5	3.5
	L	2.5	2.0
L	R	2.5	3.0
	L	3.5	3.5
M	R	3.5	2.0
	L	3.5	3.0
N	R	2.0	3.0
	L	2.5	3.5
O	R	3.0	3.0
	L	3.0	4.0
P	R	3.0	3.0
	L	2.0	4.0
Q	R	2.5	2.0
	L	3.5	2.5

<図1:ワキ毛の処理によりニオイが軽減した人の割合>



※1)6段階臭気判定強度表示法(臭気判定士の判断により、今回は中間の強さの判定を加えた。)

- 0 : 無臭
- 1.0 : やっと感知できるにおい
- 2.0 : 何のにおいであるかわかる弱いにおい
- 3.0 : 楽に感知できるにおい
- 4.0 : 強いにおい
- 5.0 : 強烈なにおい

■ グルーミングした側のワキのニオイが弱くなったモニター

■ グルーミングした側のワキのニオイは変わらず、処理していないワキのニオイが増えたモニター

～ワキ毛とワキのニオイに関する検証レポート～

②モニター自身による肌着のニオイの主観判定 モニター自身もニオイの軽減を実感

半数以上の男性(17人中9人)が自身のワキのニオイ軽減を実感

【評価手順】

- 1)モニターが各測定日の2日前から指定の肌着を着用。着用肌着を半裁し、それぞれの両ワキ部分を自身が直接嗅いで主観的に判定する。その際モニターはどちらのワキの部分を嗅いでいるかわからないようにして判定する。
- 2)評価基準にはVAS法(※2)を採用。
- 3)2週間後、再度上記の1～2を実施。

※2【VAS法】100mmの直線状の端を「まったくにおわない(0mmの位置)」とし、他の端を「とてもにおう(100mmの位置)」とし、被験者自身のワキのにおいに対する現在の状態を記入させ評価する。

■モニター自身がニオイの軽減を実感

半数以上の男性が「毛を整えることでワキのニオイが軽減した」と実感

モニター自身が着用した肌着の両ワキ部分を直接嗅ぎ、自身のニオイの軽減について体感する評価方法を実施しました。自分のニオイは判断しづらいと言われていますが、今回の実験ではワキ毛の処理前後のニオイの差をモニター自身が判断する方法をとりました。その結果、**17人中9人の男性が、毛を処理しているワキにおいて、処理前よりも処理後の方が、ニオイが弱いと感じました**(表2参照)。

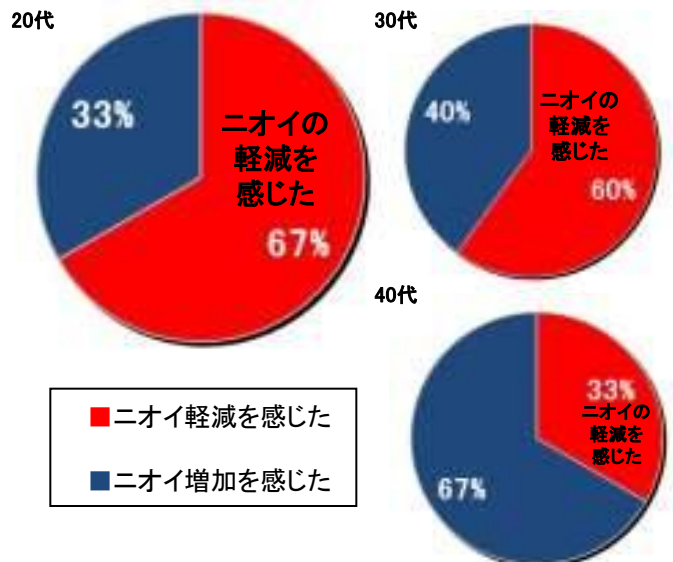
<表2:モニター自身による肌着のニオイ判定>

	被験者	スタート時	2週間後	変化量
20代	A	52.0	33.0	-19.0
	B	14.0	70.0	56
	C	73.0	21.0	-52
	D	84.5	78.0	-6.5
	E	14.5	5.0	-9.5
	F	50.0	47.0	-3
30代	G	3.0	35.0	32
	H	60.0	37.0	-23
	I	18.0	12.0	-6
	J	80.0	3.0	-77
	K	23.0	55.0	32
40代	L	39.0	64.0	25
	M	11.5	53.0	41.5
	N	24.0	4.0	-20
	O	82.5	78.0	-4.5
	P	55.0	59.0	4
	Q	84.0	66.5	-17.5

※±5以上の増減を変化ありと判定する。

また、結果がより顕著に出ているのは、①の結果と同様に20代男性で、**約67%(6人中4人)が肌着におけるワキのニオイの軽減を実感しています**(図2参照)。その他、30代では約60%(5人中3人)、40代においても6人中2人の男性が「ニオイの軽減を実感した」という結果が出ています。これらのことから、**ワキのニオイ対策において、毛を整えることは効果的な方法の一つである**ことが伺えます。

<図2:年代別、ニオイの軽減を感じたモニターの割合>



～ワキ毛とワキのニオイに関する検証レポート～ 「ワキの体毛を短く整えること」は ニオイの軽減に有効

臭気判定士:石川 英一(臭気判定士会・理事)
監修:(株)エフシージー総合研究所

臭気判定士:石川 英一(臭気判定士会・理事)



<プロフィール>

臭気判定士会理事。実際の判定以外にも、臭気判定士の交流促進、臭気判定士にかかる知識の向上のための活動など、臭気判定士の社会的活動を拡大するための事業を行い、臭気判定士の社会的地位の向上に寄与することを目的に活動を行っている。

「体毛の有無」がワキのニオイに大きく影響 今後のニオイ対策として「グルーミング」は有効

今回の実験においては、グルーミング処理後の半数以上の男性に「臭気強度の低下」「臭気不快度の改善」が認められました。つまり、この結果から制汗剤などを使用せずに臭気(ニオイ)の低下があった理由として「体毛の有無が大きく影響する」と言えるのではないのでしょうか。

そもそも、ワキ下にニオイが発生する原因の一つは、汗及び分泌物が皮膚や体毛の表面に付着し、そこに長時間残留することで化学分解または微生物による分解が起こり、アンモニア、イオウ化合物、低級脂肪酸といった悪臭物質が発生することと言われています。つまり、体毛を除去して汗や分泌物が付着する部分を減少させることは、ニオイの軽減に効果的だと言えるでしょう。

特に固有臭の強い男性ほどグルーミング処理後の臭気軽減効果は顕著だったため、デオドラント製品を使用しても抑えきれないニオイでも、グルーミングとの併用で改善できるのではないかと期待されます。

※今回の「ワキ毛とワキのニオイに関する評価実験」において、ご協力頂いた臭気判定士になります。
※取材対応可能ですのでご希望の場合はご相談ください。

監修:(株)エフシージー総合研究所

17人中12人の被験者にグルーミングの効果あり グルーミングはワキのニオイ軽減に有効

今回のグルーミング処理によるニオイ軽減効果に関する試験は、20代(6人)、30代(5人)、40代(6人)の男性被験者17人で実施致しました。実験内容としては、2週間、被験者の片方のワキ毛を短く整えることで、ワキのニオイが左右でどのように変化するかを調査したものです。

結果としては、17人中8人の被験者が、グルーミングした側のワキのニオイが弱くなりました。残る被験者のうち4人は、グルーミング処理をしない側のニオイが2週間後に増加したにもかかわらず、処理した側のニオイの強さに変化はありませんでした。つまり、17名中12名でグルーミング効果が認められたこととなります。グルーミング処理した側は、しない側に比べて、統計的にも有意にニオイが弱くなったということも確認されました。これらの結果は、「グルーミングがワキのニオイ軽減に有効であること」を示唆しています。さらに、当社ではワキのニオイの原因として考えられる皮膚常在菌とグルーミングとの関連性についての検証も引き続き行っています。